

平成 30 年度病害虫発生予察 注意報 第 1 号

平成 30 年 8 月 30 日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

対象作物：白ネギ

対象病害虫：シロイチモジヨトウ

- 1 対象地域 県北部地域
- 2 発生面積 多い
- 3 発生量 多い
- 4 発表の根拠

(1) 8月下旬の巡回調査結果では発生圃場率、被害葉率ともに平年を大きく上回った(図)。

発生圃場率 : 87.5 % (平年 : 41.7 %、前年 : 100 %)

平均被害葉率 : 24.8 % (平年 : 2.4 %、前年 : 9.6 %)

(2) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長される。気象予報によれば向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 70 % と予想される。

(3) 一部圃場でシロイチモジヨトウの卵塊が多数確認されている。

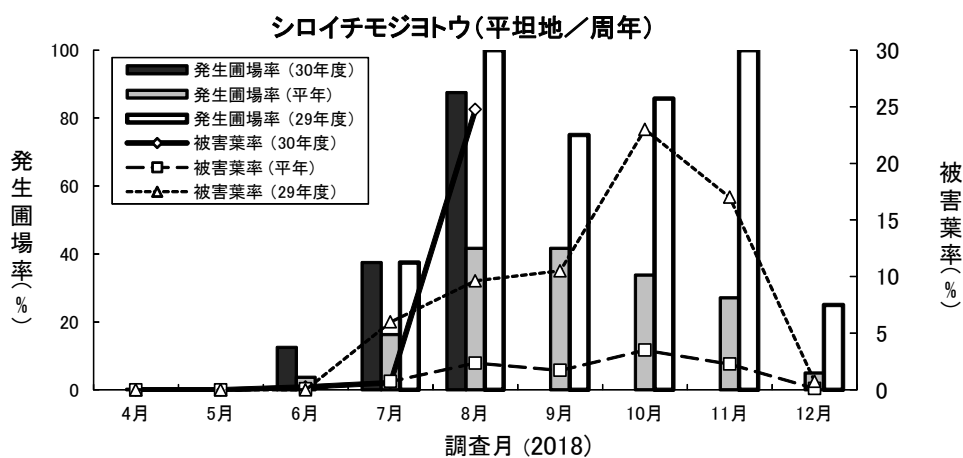


図 病害虫発生予察巡回調査における白ネギシロイチモジヨトウの発生推移

5 防除対策

(1) 薬剤に対して感受性が低下した個体群が確認されている(表)。特にプレバソフロアブル5とフェニックス顆粒水和剤は 2006 年当時に比べて感受性が低下している地域があるため、散布後に防除効果が認められない場合は使用を控える(表)。

表 白ネギシロイチモジヨトウの各薬剤に対する感受性調査結果（2006, 2017, 大分）

IRAC	系統名	薬剤名	補正死虫率（％）※		農薬に対する感受性
			2006年	2017年	
6	マクロ	アフーム乳剤	100	100	
5	スピノ	スピノエース顆粒水和剤	92.2	100	
13	その他	コテツフロアブル	95.3	100	
un	その他	プレオフロアブル	81.5	100	高い
5	スピノ	ディアナSC	-	100	
6	マクロ	アニキ乳剤	-	100	
22A	その他	トルネードフロアブル	30.2	97.6	
28	ジアミ	ベネビアOD	-	80.1	
15	I G R	カスケード乳剤	20.6	33.1	
28	ジアミ	フェニックス顆粒水和剤	98.9	21.1	低い
28	ジアミ	プレバソンフロアブル5	86.7	12.2	

※補正死虫率＝(対照生存虫率-処理生存虫率) / 対照生存虫率×100

※豊後高田市3地区平均値

- (2) 本虫は農薬に対する抵抗性を獲得しやすいため、同系統の薬剤を連続して使用しない。
また、地域が一体となって散布薬剤の見直しや同時期での一斉防除、交信攪乱剤の導入等に取り組むことが重要である。
- (3) 本虫が葉身内に侵入すると防除効果が著しく低下する。葉身内に侵入する前に防除を行う事が重要である。
- (4) 散布時は展着剤を加用し、十分な薬液量（ラベル記載内容の範囲内）で丁寧に散布する。
- (5) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」(<http://www.jppn.ne.jp/oita/>)を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。



病害虫対策チームホームページ